

(06273197) 株式会社ダスキン 様 2022年度版(2021年度実績分) 健康スコアリングレポート

* 本レポートは、2019～2021年度のデータに基づいて作成しています。

- 我が国は既に人口減少、超高齢化社会に突入し、深刻化する人手不足に加え、従業員の平均年齢の上昇による健康リスクの増大、生産性低下といった構造的課題に直面しています。
- 従業員がいつまでも元気で働き続けられる環境づくり、予防・健康づくりなくして、企業における持続的成長の実現は困難です。
- そのためには、健保組合と事業主(企業)が連携し、一体となって予防・健康づくりの取組を進める必要があります。
- 本レポートでは、事業主と健保組合のコミュニケーションの一助となるよう、予防・健康づくりの取組状況や健康状況等を可視化しています。経営者においては、企業の財産である従業員等の健康を守るために、健保組合と連携した従業員等の予防・健康づくりの取組のさらなる推進にご活用ください。なお、健康状況等に関する詳細情報は健保組合にお問い合わせください。

健保組合の保健事業が健康課題の解決策に！



少子高齢化の進展や定年延長といった社会環境の変化に伴い、労働者の平均年齢の上昇に加えて、健保組合における医療費も増加を続けています。こうした中で、従業員等に対する予防・健康づくりの取組をより一層進めるために、事業主と健保組合による協働が求められています。

■ 就業者の平均年齢の推移



※総務省統計局「労働力調査」に基づく推計(5歳階級の中央の年齢に就業者数を乗じた値を積み上げ、全就業者数で除す方法で算出)。

■ 医療費の推移



※厚生労働省「医療保険に関する基礎資料～令和2年度の医療費等の状況～」に基づき作成。医療費は全健保組合の総額。

【本レポートで使用する用語の定義】

「特定健診」：特定健康診査 / 「業態」：事業所における業態(42分類) /

「全事業所」：特定健診の対象となる被保険者数50名以上の事業所 /

「所属保険者」：被保険者数50名未満の事業所も含めて算出する所属保険者の被保険者の平均 /

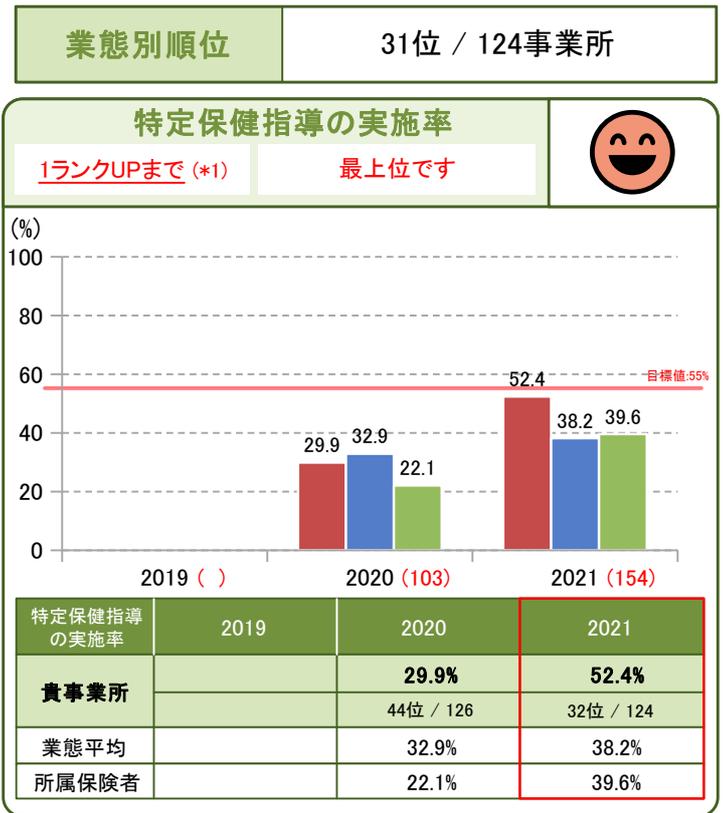
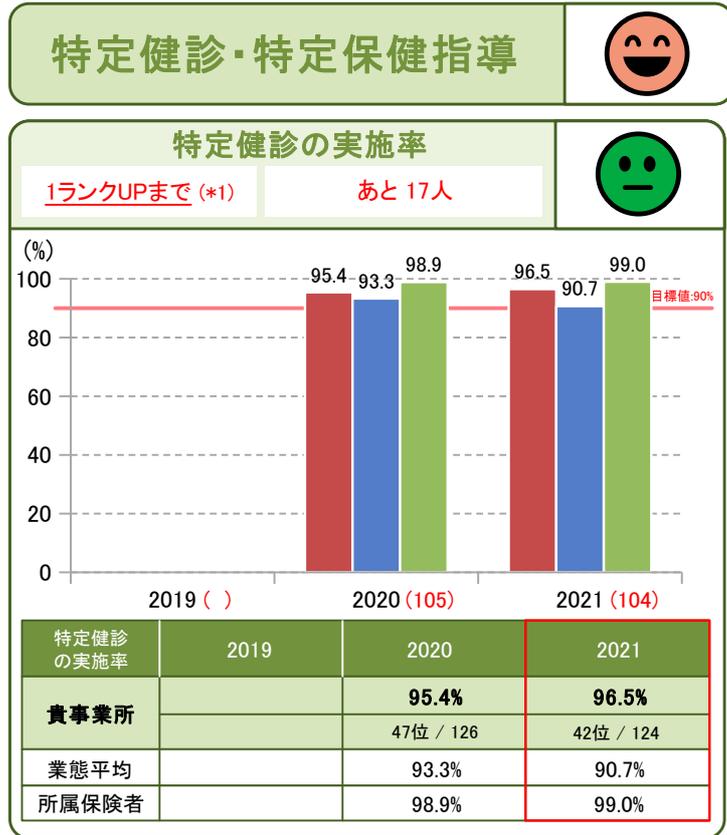
「所属保険者の全事業所平均」：事業所レポート作成対象(特定健診の対象となる被保険者数50名以上)の事業所のみで算出する平均

貴事業所の業態は以下で表示

対個人サービス業

貴事業所の予防・健康づくりの取組状況と健康状況の概要

【貴事業所の特定健診・特定保健指導の実施状況】



※ 目標値は、第3期（2018～2023年度）特定健康診査等実施計画期間における所属する保険者の種別目標。

※ 順位は、業態ごとに事業所のスコアの高い順にランキング。

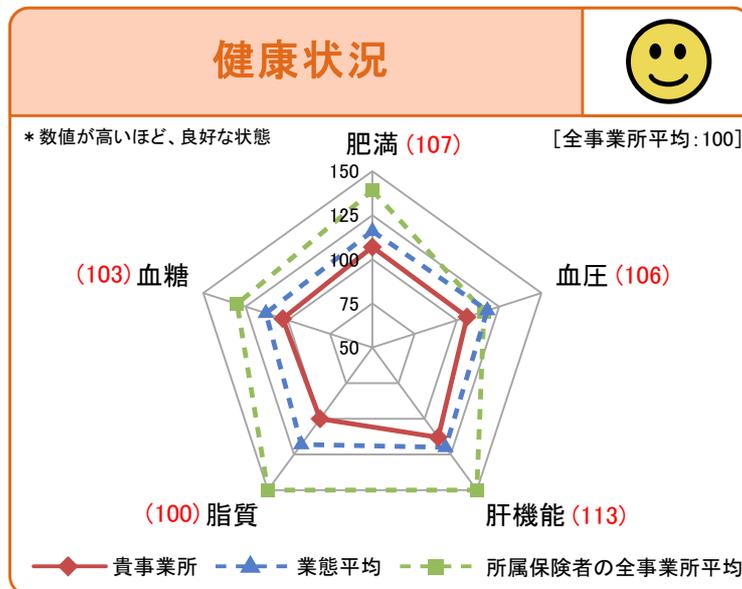
※ ()内の数値は、全事業所平均を100とした際の貴事業所の相対値。

※ なお、被扶養者(家族)を含む加入者全体の目標である。

■ 貴事業所 ■ 業態平均 ■ 所属保険者

(*) "ランクUP"は、5段階評価のランクを1つ上げるための目安(実施人数)を記載

【貴事業所の健康状況】生活習慣病リスク保有者の割合



リスク	良好 ←	中央値と 同程度	→ 不良
肥満リスク			
血圧リスク			
肝機能リスク			
脂質リスク			
血糖リスク			

【参考】節度ある適度な飲酒で健康な肝臓を！

飲酒習慣とアルコール性肝疾患罹患率との関連性を、被保険者の特定健診情報と電子レセプトから集計したところ、**多量飲酒者割合が高い組合は、アルコール性肝疾患罹患率が相対的に高い傾向がみられます。**

肝臓は沈黙の臓器と呼ばれ、早期発見に向けた定期的な健診受診が重要です。

肝機能を把握し、適切な飲酒習慣を心がけるよう促しましょう。

※アルコール性肝疾患については、レセプト上に「アルコール」が記録されている肝臓がん、肝不全、肝硬変、肝炎、脂肪肝、肝疾患、肝障害、肝機能障害と定義

※多量飲酒者割合は、飲酒状況に関する質問票の回答がある者のみを対象に算出

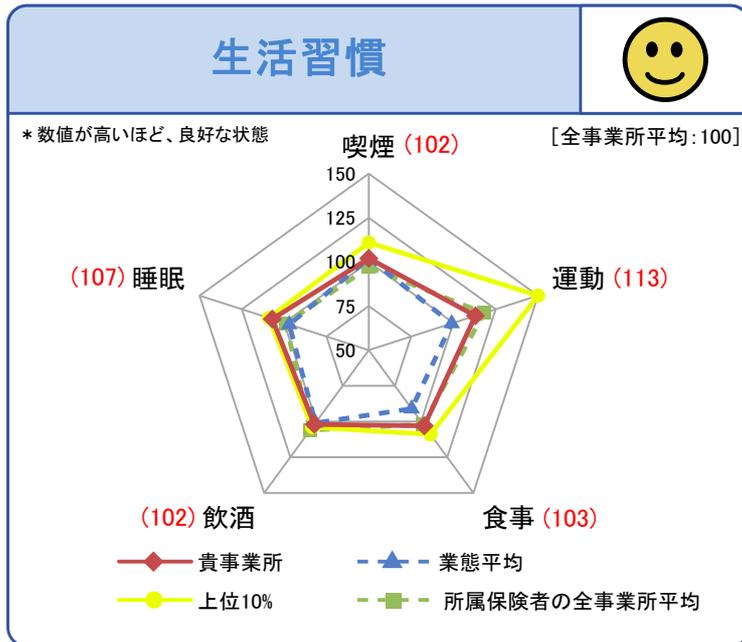
※「多量飲酒者」とは「飲酒頻度が「毎日」で1日あたり飲酒量が2合以上」もしくは「飲酒頻度が「時々」で1日あたり飲酒量が3合以上の者

多量飲酒者割合別 アルコール性肝疾患罹患率（2020年度）



貴事業所の生活習慣

【貴事業所の生活習慣】適正な生活習慣を有する者の割合



リスク	良好 ←	中央値と同程度	→ 不良	ランクUPまで (*1)
喫煙習慣リスク				あと 104人
運動習慣リスク				あと 28人
食事習慣リスク				あと 24人
飲酒習慣リスク				あと 42人
睡眠習慣リスク				あと 33人

※ 2021年度に特定健診を受診した者のみのデータを集計。
 ※ 生活習慣データについては、一部任意項目であるため、事業所が保有しているデータのみで構成。
 ※ 上位10%は業態ごとの「総合スコア」が上位10%に入る事業所の各項目の平均値を表す。ただし、業態内の事業所数が20以下の場合、全事業所の「総合スコア」上位10%の平均値を表示。

(*1) 「ランクUP」は、5段階評価のランクを1つ上げるための目安 (リスク対象者を減らす人数) を記載

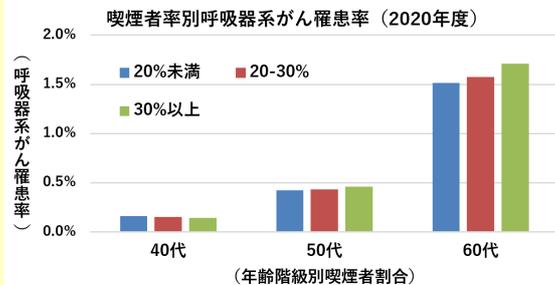
健康状況の経年変化		2019	2020	2021
肥満	貴事業所		106	107
	業態平均		114	116
血压	貴事業所		99	106
	業態平均		120	118
肝機能	貴事業所		107	113
	業態平均		118	120
脂質	貴事業所		106	100
	業態平均		116	118
血糖	貴事業所		110	103
	業態平均		113	113

生活習慣の経年変化		2019	2020	2021
喫煙	貴事業所		98	102
	業態平均		103	102
	上位10%		117	111
運動	貴事業所		113	113
	業態平均		97	99
	上位10%		132	151
食事	貴事業所		105	103
	業態平均		92	91
	上位10%		117	109
飲酒	貴事業所		101	102
	業態平均		101	101
	上位10%		106	104
睡眠	貴事業所		100	107
	業態平均		95	97
	上位10%		112	109

【参考】 たばこを吸うと呼吸器系がんのリスクが上昇！

保険者の喫煙者割合と呼吸器系がんの罹患率を年齢階級別に集計した結果、40代以上では年代が上がるほど、また50代以上では喫煙者割合が増えるほど呼吸器系がんの罹患率が上がることがわかりました。喫煙歴が長いほど、がんのリスクも上がると言われており、より早期から喫煙対策・禁煙事業に取り組むことが重要です。

(※呼吸器系がん…肺がん、口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、鼻腔(副鼻腔)がん)



← 良好 ← 中央値と同程度 → 不良

全事業所平均を100とした際の各事業所の相対値を高い順に5等分し、「良好 」から「不良 」の5段階で表記しています。

(注) 【本レポートにおけるデータ対象】
 ・特定健診(健康状況・生活習慣)：40歳～74歳の被保険者。
 ・データが存在しない場合、非表示。計算不能の場合「-」を表示。
 健康状況・生活習慣は、対象となる被保険者数50名未満の場合「×」を表示。

健康スコアリングレポート

2022年度版

(2021年度実績分)

厚生労働省 日本健康会議 経済産業省
